

自己点検・評価での課題への対応

部局等 リカレント教育推進本部

自己点検・評価での課題等 (令和7年1月 日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：2-1</p> <p>○ 附属リカレント研修センターについては、現時点でセンター要項第6条に規定する運営委員会は上記の理由により開催されておらず、当センターの業務見直し又は改廃も含め検討していく必要がある。</p>	<p>今年度中に策定する「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」に基づき、次年度以降、リスクリングプログラムの実施を踏まえた附属リカレント研修センターの在り方について検討する。</p>	<p>「産学官金連携によるふくい型アプレントィスキュリア形成プログラム」(令和3～5年度)、「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1(学生教育/社会人教育)」によるリスクリングプログラム(令和5年度～)等、これまで実施されてきたリカレント教育においては、地域連携推進課、基金事務局等、事業の担当部署が組織間の調整を行い、かつ効率的であったため、附属リカレント研修センターについて、センター要項第6条に規定する運営委員会は開催されていない。</p> <p>令和7年2月、「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」の策定後、プログラムの学内募集を行った令和7年度「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1(学生教育/社会人教育)」によるリスクリングプログラムについては、リスクリング教育の推進に積極的な教員の協力により、一部講座での受講料の設定、また、企業等のニーズにマッチし、当該企業等の社員・職員を対象としたプログラム(オーダーメイド型リスクリングプログラム)の開設等を実現し、受講者数の大幅な増加に繋がっている(令和6年度比112名の増加)。また、講座内容についても、受講者から概ね高い評価を得ている。</p> <p>これらのプログラムの実施にあたっては、県からの予算に基づき、担当講座の時間数に応じ、講座担当教員へのインセンティブを措置しており、教員へのサポートに大きく寄与している。</p> <p>今後は、令和7年度のリスクリングプログラムの実施により得られた成果、ノウハウ等の知見を踏まえ、インセンティブ等の教員に対するメリットについての情報共有を図りながら、プ</p>

		<p>プログラム担当教員の拡大を行い、附属リカレント研修センター運営委員会において、リカレント教育の推進について議論・検討を行っていききたい。</p>
<p>基準番号：2-2</p> <p>○ 今後、リカレント教育推進に関する方向性を定め全学的なリカレント教育を実施するためには、リカレント教育推進本部長は、リカレント教育の実務を担当する社会連携担当理事に役割を集約することも含め、今後検討していく必要がある。</p>	<p>次年度からの運営体制として、企画戦略・社会共創担当理事（副学長）がリカレント教育推進本部長、地域創生推進本部長及び産学官連携本部長を兼務することとなり、企業との連携を含めた全学的なリカレント教育推進の体制が整備された。</p>	<p>左記のとおり、対応完了済である。</p>

自己点検・評価での課題等 (令和7年1月 日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：3-1</p> <p>○ 今後検討すべき事項として、受講料金の設定、教員等へのインセンティブ措置、大学院への社会人入学者への奨学金等の支援及び企業等と連携した大学院への社会人入学制度について、次年度以降検討していくこととしている。</p>	<p>今年度中に策定する「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」に基づき、次年度以降、受講料金の設定、教員等へのインセンティブ措置、大学院への社会人入学者への奨学金等の支援及び企業等と連携した大学院への社会人入学制度について検討する。</p>	<p>令和7年度、福井県が主導する「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1（学生教育／社会人教育）」によるリスクリングプログラムを中心にリカレント教育を推進しているところである。</p> <p>一部の講座（講師：工学部建築建設工学講座教員）について、受講料を設定しているが、関連業界の実務ニーズに沿った講座内容であるため、当初定員を超える受講者数に繋がっている。</p> <p>また、企業等のニーズにマッチし、当該企業等の社員・職員を対象としたプログラム（オーダーメイド型リスクリングプログラム）を令和7年度新たに開講し、一定の受講者数を得、講座内容についても、概ね高い評価を得たところである。</p> <p>これらのプログラムの実施にあたっては、県からの予算に基づき、担当講座の時間数に応じ、講座担当教員へのインセンティブを措置している。</p> <p>大学院への社会人入学者への奨学金等の支援及び企業等と連携した大学院への社会人入学制度については、上記のリスクリングプログラムの実施による成果、ノウハウ等の知見、企業・自治体等のニーズを積み上げながら、引き続き検討を進めていく。</p>
<p>基準番号：3-5</p> <p>○ 今後、福大ビジョン2040に則り学びの母港構築による多様な学びの機会を提供していくのであれば、本学のリカレント／リスクリング教育の成果等を一元化し広く社会へ公表していく等、公表方法を検討する必要がある。</p>	<p>今年度中に策定する「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」に基づき、次年度以降、本学のリカレント／リスクリング教育の成果等を一元化し広く社会へ公表していく等、公表方法について検討する。</p>	<p>現状、地域創生推進本部、生涯学習市民開放プログラム、各リカレント教育実施組織（各学部・研究科、学内共同教育研究施設等）において、主にそれぞれのホームページを通じて活動状況及び成果・効果等を公表している。</p> <p>リカレント／リスクリング教育の成果等の一元化を推進していくにあたり、新たなホームページ（リカレント教育推進本部）の開設を中心に引き続き検討を行っていく。</p> <p>前述のとおり、「未来協働プラットフォームふくい・実行部門</p>

		<p>会議1（学生教育／社会人教育）」によるリスクリングプログラムの一部講座において、受講料収入を得ているところであるが、検討にあたっては、将来的な事業の自走化を見据え、収支シミュレーションに基づき、ホームページの整備の可能性について精査を行っていく。</p>
--	--	--

自己点検・評価での課題等 (令和7年1月 日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：6-1</p> <p>○ 現時点では、福井大学同窓経営者の会が実施するリカレント教育に限り、当本部に予算配分されているが、今後全学としてリカレント教育を推進するに当たっては、全学で実施する予算の配分方法について検討する必要がある。</p>	<p>今年度中に策定する「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」に基づき、次年度以降、今後全学でリカレント教育を推進していくための予算配分方法について検討する。</p>	<p>令和7年度、福井大学同窓経営者の会が実施するリカレント教育については、福井県が主導する「未来協働プラットフォームふくい・実行部門会議1（学生教育／社会人教育）」の事業として実施しており、令和8年度以降も同様の枠組みでの実施を予定している。実施に要する経費について、「プラットフォームふくい」において福井県から措置されており、配分方法の問題は解消されている。</p>